

増える結婚願望

東日本大震災の後、ある結婚相談所では申し込みが30%も増えたそうです。また、婚約指輪・結婚指輪の売れ行きも好調のようで、東京のオーダーメイドジュエリー店では、震災以降、指輪の成約件数が20%増えたというお話もあります。

若い世代の方々も、東日本大震災の悲惨な状況を見て、一人であることの不安、寂しさを実感したのではないかと思います。

我が国では、少子化が極めて大きな、というより深刻な問題となっていますが、その要因の一つに若い方々の結婚離れがありましたから、動機は何であれ、結婚願望が広がることは素直に喜ぶべきでしょう。

結婚は、お互いを尊重すること無しには成り立ちません。結婚生活を続けていくためには、好きという一時的感情だけでは継続できるわけもなく、互いに譲歩する、思いやることが必要になります。こうしたことから、好きな時に好きなことをして、今を楽しく生きていければよいと考える人にとっては、結婚は不自由で面倒なものに写っていたでしょうし、結婚に対する興味も無くしていたのではないかと思います。

東日本大震災は、こうした自分の自由な生活を謳歌している若者達にも、人生観を換えるような衝撃を与えたようです。

巨大地震で大揺れに揺れる家の中で一人ふるえている自分、被災地に一人で放り出された自分、行き場なく茫然と立ちつくす自分、もしかしたら誰からも救いの手がないまま死のうとしている自分、そうした自分の姿を想像したとき、計り知れない寂しさや、悲しさに襲われたとしても不思議ではありません。

「人という字は、人と人が寄り添っている姿を現している」とは良くいわれることですが、被災者の皆さんが厳しい環境の中でも支えあって乗り切ろうとしている姿は、まさに「人」という字の成り立ちを彷彿とさせるものがあります。

一人では耐えられないことでも、共にその苦しみや悲しみを分かち合う人がいれば乗り越えることができる。挫折感に崩れ落ちそうなときでも、支える人がいれば再び立ち上がる勇気が持てる。被災者の皆さんの姿を通して、若い方々も、そうした絆の持つ力の大きさを実感したのではないのでしょうか。

ある結婚相談所に入会した女性は、「震災を契機に人生の優先順位を考え直すようになった」という話をされたそうです。

東日本大震災は、今、人々の生き方や価値観に対しても大きな示唆を与えているのだと、改めて強く感じています。(塾頭 吉田 洋一)